

聖書日課 『からし種』 2024.5.12-5.19

<p>5月12日 (日) 箴言 25章</p>	<p>「時宜にかなって語られる言葉は／銀細工に付けられた金のりんご。聞き分ける耳に与えられる賢い懲らしめは／金の輪、純金の飾り」(11-12節)。適切に語る人・聞く人そのものよりも、そういう人同士の「関係」こそが金銀細工のように美しいのだろう。「人が独りでいるのは良くない(創2:18)」のは、私たちの関係の中に神の国が現れるからではないか。</p>
<p>13日 (月) 箴言 26章</p>	<p>「自分を賢者と思い込んでいる者を見たか。彼よりは愚か者のほうがまだ希望が持てる」(12節)。11節までを「愚か者にはなりたくないなあ」と思って読んでいると、この節で「自分は賢いと思うのか？」と痛烈に問われる。同時に、自分のしていることがわからない愚か者でも、「父よ、彼らをお赦してください」と祈ってくださる十字架のイエスに出会う希望を知らされる。</p>
<p>14日 (火) 箴言 27章</p>	<p>「明日のことを誇るな。一日のうちに何が生まれるか知らないのだから」(1節)。「目に見えないものは信じられない」と言いつつ、実はまだ目に見えない明日のことまで、当然あるものと思いついて誇ったり逆に思い悩んだりしてしまう。でも、その日の苦労を十分に終えたら、明日は「主の御心であれば、生き永らえて、あのことやこのことをしよう(ヤコブ4:15)」と言おう。</p>
<p>15日 (水) 箴言 28章</p>	<p>「人を偏り見るのはよくない。だれでも一片のパンのために罪を犯しうる」(21節)。主の憐れみが心に深く染み入る御言葉。世の中で巧妙に騙したり暴力で奪ったりしている人々も、一片のパンのために他の誰かに使われているのかも知れない。同じ罪人であるこの私も、全ての人の霊肉を満たす一片の命のパンとして来られたキリストの働きを担っていきたい。</p>

聖書日課 『からし種』 2024.5.12-5.19

<p>16日 (木)</p> <p>箴言 29章</p>	<p>「貧しい人と虐げる者とが出会う。主はどちらの目にも光を与えておられる(13節)。出会った一方が「虐げる者」となれば、相手は「貧しい人」にさせられる。一方が「金持ち」になろうとすれば他方は「貧乏な人」にさせられる(22:2)。しかし、創造主は誰の目一心の目一にも同じ「イエス・キリスト」という光を与えておられるはず。その光に心を向けたい。</p>
<p>17日 (金)</p> <p>箴言 30章</p>	<p>「この地上に小さなものが四つある。それは知恵者中の知恵者だ...やもりは手で捕まえられるが／王の宮殿に住んでいる(24-28節)。生きるのも疲れる酷な時代。自分でも呆れる自らの無知。そんな中、神の小さな被造物が知恵を十分に活かして懸命に生きる姿から受ける励ましと慰め...ヤケの子アグルの言葉は、今の私たちの状況や心と驚くほど響き合う。</p>
<p>18日 (土)</p> <p>箴言 31章</p>	<p>「あなたの口を開いて弁護せよ／ものを言えない人を／犠牲になっている人の訴えを(8節)。王である息子レムエルに熱く語った母にも、その論しを覚えて書き記したレムエルにも学びたい。「あなたの口を開いて」にチャレンジを受ける。イエスはまさに「罪人、けがれた人、主の会衆に入れない人」と呼ばれた人々をはっきりと弁護して、十字架への道を進まれた。</p>
<p>19日 (日)</p> <p>コヘレト 1章</p>	<p>「コヘレトは言う。なんとという空しさ／なんとという空しさ、すべては空しい(2節)。「コヘレト」は「集会の招集者」の意。彼は世界のすべてを探求して「すべては空しい」と人々に呼びかける。同時に「神を畏れ、その戒めを守れ。これこそ、人間のすべて」(12:13)とも。神以外に永遠で、確かなものはない。新しい週の初めに、心向けるべき確かなものを求めて集おう。</p>